

神田村のベランダから…。

(株)テイダン 代表取締役・湯本隆信

Takanobu Yumoto

▶昨年12月、11月の訪日外客数が発表になった、それによればこの11か月の合計は2,856万人（推計値）。月平均259万人ということで、残り12月の1か月をプラスすると、約3,100万人ということになる。3,000万人はクリアしそうだ。問題は、2020年までの4,000万人ということだが、これを月ベースでみると、約333万人。なかなかの数字ともいえよう。今年の8、9月のように、天災・人災・地震のような事象がおこらなければ、ということにもなる。さらには、入管法改正に伴う、“テロ”も心配の種だ。それにしても、まだまだ東アジア（中国・韓国・台湾・香港）からの訪日が11月の事例からみれば、70%を占めている実態からすると、はなはだ疑問といったところか。やはり必要なのは、ディビッド・アトキンソン（『新・観光立国論』）がいうように、遠方からの訪日ということになろう。今後、期待したいものだ。

▶ところで、先日、「水道事業」の民営化が国会を通過した。これで、「電気」「水道」と民営化されたわけだが、もっと大切な問題は、燃料である「メタンハイドレート」だろう。メタンは、既に太平洋側で年間予算600億円近い金額で研究・開発中ではあるが、青山千春（水産学研究者・博士）は、日本海側で、その塊を発見。参議院議員で夫の青山繁晴は、「資源国家」を目指す、としている。そうなれば、電気・水道に加えて、「メタン」の民営化ということか。なかなか面白い時代だ。「電気」の民営化は、既に定着した感があり、多くのレジャー・ラブホテルで採用されている。平均10%前後か、新電力会社への切替前よりも安くなる仕組みだ。ここに「水道」が加わることになれば、その減額は、大なるものといえよう。なぜなら、1ホテル当りの水道経費は、1か月50万円以上かかるわけだから、侮れない。そこに、燃料ということになれば、ますます効果的な経営ができることになろう。

▶先日、ホテルの経営者である若者が来社（二代目か）。彼曰く、「業界の歴史、状況を知りたい」とのこと。なかなか一言でいえることではない。そこで、小

欄がMEMOしている、「昭和・平成」の現物を渡し——これは、あまり見せてはいない——喫茶店で延々と説明。質問者の意図もわからず、「モーテル」から、今日の「ラブホテル」まで。それはそれは、大いに疲れ切り、若者と別れてから、思わず、いつもの酒場に。いままで喋っていたことが頭から離れず、あれもこれも、言い忘れたと深く反省。業界の先代の方々を一人一人想い浮かべ、ひどく飲みすぎた夜となった——またもや、反省——。

▶平成も今年で終わり、5月1日からは新年号とか。昭和から平成にかわった時、旧元号の新年は、7日程だったような気がする——その昭和64を書いたのが、横山秀夫だったか。「ロクヨン」なる作品だ——。これは、別の意味で衝撃的でもあった記憶がある。この元号については、「退位特例法」が成立しているが、これをスクープしたのが、NHKの橋口和人氏だったという。知り得た情報を、どのように発表・公表するか、まさに首を掛けた葛藤があったようだ。しからば、次の元号は何になるのか、既に“緘口令”がひかれているようだが、次の元号を知りたくもある。

▶しかし、昭和生まれの小欄——20年代だが——、平成も終わって、昭和・平成と、いささか長い人生といえる。その昔は、人生50~60歳ではなかったか。いまや嫌われ者の団塊世代。ある人、曰く「団塊が終わらないと、次の世代は来ない」と。しかし、その世代も今や、“ゲバ棒が杖”に。嘆かわしい限りだ。ただし、ここからがシツコイ。これが、ゲバルトの世代だ。伊達や酔狂で、ポリスと闘った訳ではない。わが世代には、執念・意地がある。今や腰砕けげみでもあるが、それも歳ゆえに、さもありなん。激動の昭和、内平外成として、内平かに外成る（史記）として、平成。なるほどね。先日、訪ねてきた若者の世代に、どう伝えるかも、小欄の役割か。

諸先輩らのおこないをそのままに、伝承することを、この年末に考えることにする。ちょっと、早くもあるが。良い御年に（年末にて）。